



ウェルネスツーリズムにおける保健分野の有効性に関する研究

石井博之, 楠田美奈, 相原圭太 (杏林大学 保健学部) 小堀貴亮(外国語学部)

1. はじめに

保健学部教員は今まで学科間連携により、2014年から「新しい都市型高齢社会における地域と大学の統合地の拠点」事業の一環として、「都市型高齢社会の健康と安心」及び「健康寿命延伸」を目的とした「スポーツ機会提供プログラム」等を主に西東京地域で実施してきた。今後はこの分野でも本学の学部間連携を強めることで、杏林大学の特長を活かした地域貢献活動・教育・研究の質向上を図りたいと考えている。

その一環として2022年度から外国語学部観光交流文化学科と連携し、東伊豆町、田原市と地域包括連携協定を締結し、本学の専門分野を活かした「杏林型ウェルネスツーリズム」を模索してきた

そして我々は日本の観光資源である温泉の活用と効果の検証は十分に考慮に入れ、さらにそれぞれの観光地の持ち味を活かし、我々の専門領域を活かして以下の要素をウェルネスとして加えていくこととした。昨年度は田原市に関して報告した。今回は東伊豆町の特徴と、本学の学部間連携を活かした今後の取り組みに対するいくつかの知見が得られたので報告する。

2. 方法

2022年に東伊豆町とは地域包括連携協定が締結され、今までウェルネスツーリズムを主なテーマとして卒業研究や研修などの学生教育や地域貢献プログラムが実施されてきた。今後更に「杏林型ウェルネスツーリズム」における保健分野の有効性に関する研究をすすめるべく、自治体の観光分野関係者と協議をおこない、また現地調査を実施した。

一昨年前は東伊豆の医療・保健・福祉関係者から情報を得たが、今回は主に東伊豆町観光産業課から主に観光事業の現状の情報を得た。また東伊豆の観光資源、自然環境を調査し、それらから「杏林型ウェルネスツーリズム」の有効性を検討することとした。

3. 結果および考察

東伊豆町は観光事業者の世代交代が進み、「ウェルネスツーリズム」を連係で実施するに際して協力を得られる可能性のある人材が増えてきている。今後彼らと協力関係を築くことで、「杏林型ウェルネスツーリズム」の社会実装に向けた取り組みが可能と考えられた。

また観光資源、自然環境としては、比較的平らな環境である海岸線と、高低差を豊富に有する稲取高原があり、また稲取高原にはウォーキングやトレッキング、ジョギングに最適なクロスカントリーコースがあり、またそれ全体がサイクリングやマラソンなど多種多様な運動を自然の景観を楽しみながら実施できる(図1・2)。

今回の協議により、今後宿泊業など観光関係者との連携をすすめることで、東伊豆町の現状に即した今後の連携についてさらなる協議と、社会実装に向けた具体的な取組の方向性を検討することとした。加えて今回の調査により、インターバルトレーニングやリスク管理の要素を加えるだけでなく、我々が実践しているポールウォーキングやノルディックウォーキング等、歩行の多様性を加えていくことが、その取り組みの楽しみの質、持続性などの魅力を高めることとなると考えられる。



図1 稲取高原クロスカントリーコースからの眺望
このような景色を楽しみながらウォーキングなどを
楽しむことができる。



図2 クロスカントリーコースの路面状況
整備が行き届き、ウォーキングなどを楽しむため
の安全が確保されている。